図書館員のひみつの本棚　第197回

　9月20～26日は動物愛護週間ですね。今月は、動物たちが大活躍するお話を紹介します。

『のどか森の動物会議』
ボイ・ロルンゼン／作　山口　四郎訳　カールハインツ・グロース絵　童話館出版　1997年
￥1,400（税別）
＜お勧め年齢＞
乳幼児☆☆☆　小低学年☆☆☆　小中学年★★☆　　小高学年★★★　中学生★☆☆
高校☆☆☆　一般☆☆☆
（★が多い年齢の子どもにお勧めです。）

＜本の紹介＞
　カラスの大食いヤコブスはいつも腹ペコ。ある日、何か食べ物はないかとのぞいた旅館《ななめ角屋》で、かわず村の男たちがとんでもないことを話し合っているのを立ち聞きしてしまう。村の男たちはお金もうけのために、ヤコブスはじめ動物たちが平和に暮らしているのどか森の木を切って売り払おうというのだ。さあ大変！森の動物たちは自分たちの森を守ることができるでしょうか……？

＜子どもに手渡す時のポイント＞
　本の表紙には、大きなくちばしでソーセージの切れっぱしをくわえているちょっとユーモラスなカラス、また本の扉を開けると、見返しにはお話の舞台となるのどか森とかわず村の地図が描かれています。動物好きな子なら、見返しを見せながら簡単に内容を説明してあげると興味を持ってくれるのではないでしょうか。
　根底に流れる SDGs や環境問題を押しつけがましくなく、しかも分かりやすくおもしろく伝えてくれるこの本は、出版から50年近く経った（※）今でも色あせることなく変わらないテーマを私たちに語りかけてきます。いえ、変わらないどころか、今や喫緊の課題としてますます憂慮されている事態です。でもいったん難しいことは抜きにして、どうぞこのお話を子ども達と一緒に楽しんでください。動物たちが知恵を絞りどのように問題に立ち向かうのか、ユーモアあふれる痛快な物語に引き込まれることでしょう。
　（※本書は 1975 年にあかね書房より出版されていましたが、1997年に童話館出版より再刊されました。）

　このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。